



学校通信

令和5年度 第10号
令和6年 1月31日
練馬区立開進第三小学校
校長 岡部 良美

「向かい合う」は「迎え逢う」こと

校長 岡部 良美

『子供と向き合う時間の確保』・・・改めて昨今の教育会で重要視されているセンテンスです。相手を知る、相手を理解するためには、まず、知る機会、理解する機会が必要です。そのためには、その機会をどう得ていくかです。教育は、子供と教師の心がしっかりと結び合っている時に成立するものです。ここでいう教育とは、指導とは違い、はるかに大きく、はるかに崇高で、人間変革という段階レベルを意味しています。そういう状況に高められた時、初めて教育の成果があったと言えるものです。

その機会に必要なのは、『丁寧さ』です。上手、下手というレベルではなく、丁寧に取り組んだか否かです。『丁寧さは真剣さ』であり、やがては必ず身に付くものです。本物になっていくものです。自分が記した字を一度じっくり見てみましょう。その字自体が、その時点の心そのものなのです。丁寧であれば、その時、真剣に集中していた心で記した字なのです。丁寧な字は、本気で自分と向き合っている姿の投影であると思います。算数のノートでも、一本の線を定規で引く習慣をつけましょう。



ノートは格段に美しく、しかも丁寧にまとめることができるようになるものです。思いや願いの実現、直面する学習の課題の解決や理解促進にもつながっていくものです。

子供と向き合う、向かい合うとは、単に子供と相対する関係だけではなく、いかに子供と心を通わせるかという意味が含まれているものです。心の距離感、実測の距離感と関係すると言われていています。物理的、形式的に向き合う、向かい合うだけでは、心を通わせることはできません。『向き合う、向かい合う』は、『迎えに行き逢う』と読み替えてはいかがでしょうか。子供のそばに行き、子供に話し掛ける、触れ合うことによって心と心が結ばれていくものです。これは学校における子供と教師との関わり・学校教育ではもちろんですが、ご家庭でも子供と保護者との関わり・家庭教育にも当然当てはまるものです。

子供と向き合う、向かい合うとは、子供のところへ迎えに行き、逢える（逢えた）喜びを互いに感じることなのです。



これからの未来を創る子供たちに、教育活動を通して、学校・家庭・地域が協働して子供と向き合う時間の確保と充実を図っていることが、開三小の誇りです。

